

PCCE 環境のアップデート SQL クエリによってネットワークトランクグループ設定をアップデートして下さい

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[問題](#)

[例](#)

[解決策](#)

[手順](#)

[ロールバック](#)

概要

この資料に PCCE 環境のアップデート SQL クエリを使用してネットワークトランクグループ設定をアップデートする方法を記述されています。

前提条件

要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- Packaged Contact Center Enterprise (PCCE)
- Microsoft SQL

使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報はこれらのコンポーネントに基づいています:

- Rogger
- Peripheral Gateway PG-VRU
- Admin Workstation
- 履歴データベース AW-HDS

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

問題

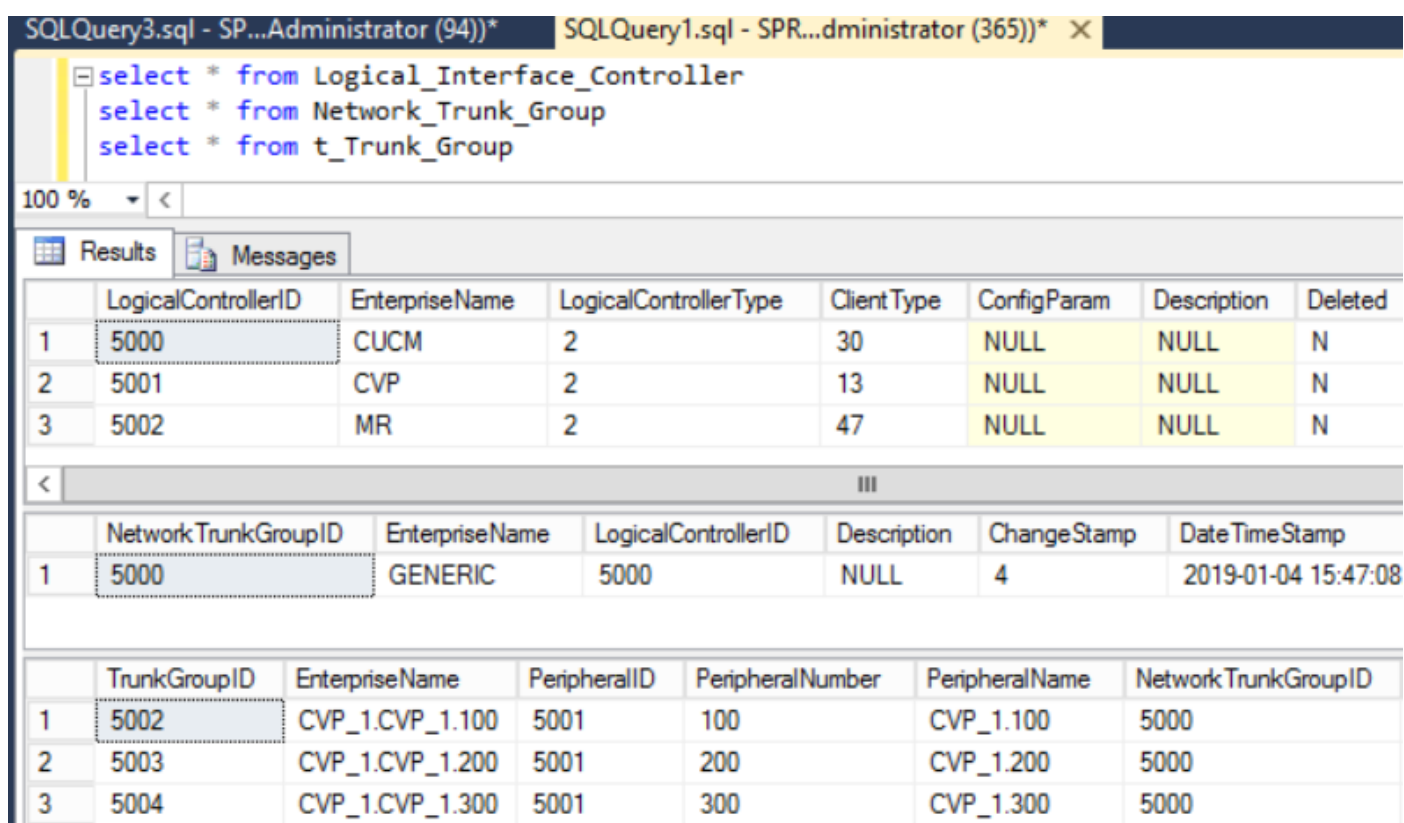
PCCE の非常に角シナリオでは、基礎設定をインポートするが期待された設定はそれぞれ/特定の設定にきちんとまたはマッピングしている 論理コントローラ/周辺装置 ID の競合とインポートされてインポートしないかもしれません。これはシステム/機能の不適切な機能性の原因となる可能性があります。

参照 [CSCvg09448](#)、[CSCvc50016](#) および [CSCvf40204](#)。

間違った情報を訂正するためにコンフィギュレーションマネージャ ユーティリティが CCEADMIN ページによって設定を行うことができない PCCE に制限があります。

例

イメージに示すように論理コントローラ、ネットワークトランクグループおよび Trunk Group 表を考慮して下さい。



The screenshot shows a SQL query execution window with the following SQL code:

```
select * from Logical_Interface_Controller
select * from Network_Trunk_Group
select * from t_Trunk_Group
```

The results are displayed in three tables:

	LogicalControllerID	EnterpriseName	LogicalControllerType	Client Type	ConfigParam	Description	Deleted
1	5000	CUCM	2	30	NULL	NULL	N
2	5001	CVP	2	13	NULL	NULL	N
3	5002	MR	2	47	NULL	NULL	N

	NetworkTrunkGroupID	EnterpriseName	LogicalControllerID	Description	ChangeStamp	Date Time Stamp
1	5000	GENERIC	5000	NULL	4	2019-01-04 15:47:08

	TrunkGroupID	EnterpriseName	PeripheralID	PeripheralNumber	PeripheralName	NetworkTrunkGroupID
1	5002	CVP_1.CVP_1.100	5001	100	CVP_1.100	5000
2	5003	CVP_1.CVP_1.200	5001	200	CVP_1.200	5000
3	5004	CVP_1.CVP_1.300	5001	300	CVP_1.300	5000

5001 の代わりに 5000 として LogicalControllerID と (CUCM) インポートされるネットワークトランクグループ (CVP)。同じが原因でそれぞれ NWTG および TG ID は VRU PG および HDS にアップデートされなかった Network_Trunk_Group_Half_Hour および Trunk_Group_Half_Hour 表間隔 データによって知られませんでした。これはブランク レポートと戻る cuic IVR ポート パフォーマンス報告に影響を与えます。

解決策

PCCE のツールの制限が設定をアップデートすると考慮するので設定をアップデート SQL クエリを使用して直接口ガー A 及び B データベースにアップデートし、AWDB と同期することを必要とします。

手順

1. 危害予防のためのロガー A 及び B および AWDB A 及び B からの完全な SQL バックアップを奪取して下さい。

<https://www.youtube.com/watch?v=VvaKmuJEE7E>

2. ロガー A 及び B サービス 始動手動稼働中 コントローラとして変更し、サービスを停止して下さい。
3. デイストリビューター A 及び B サービス 始動手動稼働中 コントローラとして変更し、サービスを停止して下さい。



4. この SQL クエリをロガーに対して DB 実行し、出力のスクリーンショットを奪取して下さい。

```
select * from Logical_Interface_Controller
```

```
select * from Network_Trunk_Group
```

```
select * from t_Trunk_Group
```

```
SQLQuery3.sql - SP...Administrator (940)* x SQLQuery1.sql - SPR...dministrator (363)*
```

```
select * from Logical_Interface_Controller
```

```
select * from Network_Trunk_Group
```

```
select * from t_Trunk_Group
```

LogicalControllerID	EnterpriseName	LogicalControllerType	ClientType	ConfigParam	Description	Deleted	PrimaryOciAddress	SecondaryOciAddress	HistoricalReportingInterval	ACDTimeEnabled	ChangeStamp	DateTimeStamp
1 5000	CUCM	2	30	NULL	NULL	N	NULL	NULL	30	N	0	2018-09-06 07:56:56.547
2 5001	CVP	2	13	NULL	NULL	N	NULL	NULL	30	N	0	2018-09-06 20:25:26.593
3 5002	MR	2	47	NULL	NULL	N	NULL	NULL	30	N	1	2019-01-09 15:52:12.050

NetworkTrunkGroupID	EnterpriseName	LogicalControllerID	Description	ChangeStamp	DateTimeStamp
1 5000	GENERIC	5001	NULL	4	2019-01-04 15:47:08.963
2 5001	CUCM	5000	NULL	0	2019-02-04 20:54:11.707

TrunkGroupID	EnterpriseName	PeripheralID	PeripheralNumber	PeripheralName	NetworkTrunkGroupID	TrunkCount	Extension	ConfigParam	Description	Deleted	ChangeStamp	DateTimeStamp
1 5002	CVP_1_CVP_1_100	5001	100	CVP_1_100	5000	-1	NULL	NULL	NULL	N	0	2019-01-15 15:41:56.327
2 5003	CVP_1_CVP_1_200	5001	200	CVP_1_200	5000	-1	NULL	NULL	NULL	N	0	2019-01-15 15:42:16.330
3 5004	CVP_1_CVP_1_300	5001	300	CVP_1_300	5000	-1	NULL	NULL	NULL	N	0	2019-01-15 15:43:58.843
4 5005	CUCM_1_CUCM_1	5000	400	CUCM_1	5001	-1	NULL	NULL	NULL	N	0	2019-02-04 20:54:11.707
5 5006	CUCM_1_CUCM_2	5000	500	CUCM_2	5001	-1	NULL	NULL	NULL	N	0	2019-02-04 20:54:34.707

注: PCCE は基礎構成で 1 人の論理コントローラとデフォルトで持っています。(UCCE のために確認して下さい)

5. ロガー A 及び B DB のサブクエリを実行し、結果が 1 つの値と戻るようにして下さい。

```
select LogicalControllerID from Logical_Interface_Controller where ClientType=13
```

```
select LogicalControllerID from Logical_Interface_Controller where ClientType=13
```

LogicalControllerID
5001

6. このアップデート SQL クエリをロガーに対して DB 実行し、クエリをうまく実行しました確認して下さい。

```
UPDATE Network_Trunk_Group SET LogicalControllerID=(select LogicalControllerID from Logical_Interface_Controller where ClientType=13) where NetworkTrunkGroupID=5000
```

```
UPDATE Network_Trunk_Group
SET LogicalControllerID=
(select LogicalControllerID from Logical_Interface_Controller where ClientType=13)
where NetworkTrunkGroupID=5000
```

(1 row(s) affected)

7. Network_Trunk_Group からの『*』を選択を再実行し、アップデートされる論理コントローラ ID を確認して下さい。

8. 下記のアップデート SQL クエリをロガー B DB に対して実行し、うまく実行されるクエリを確認して下さい。

```
UPDATE Network_Trunk_Group SET LogicalControllerID=(select LogicalControllerID from Logical_Interface_Controller where ClientType=13) where NetworkTrunkGroupID=5000
```

9. Network_Trunk_Group からの『*』を選択を再実行し、アップデートされる論理コントローラ ID を確認して下さい。

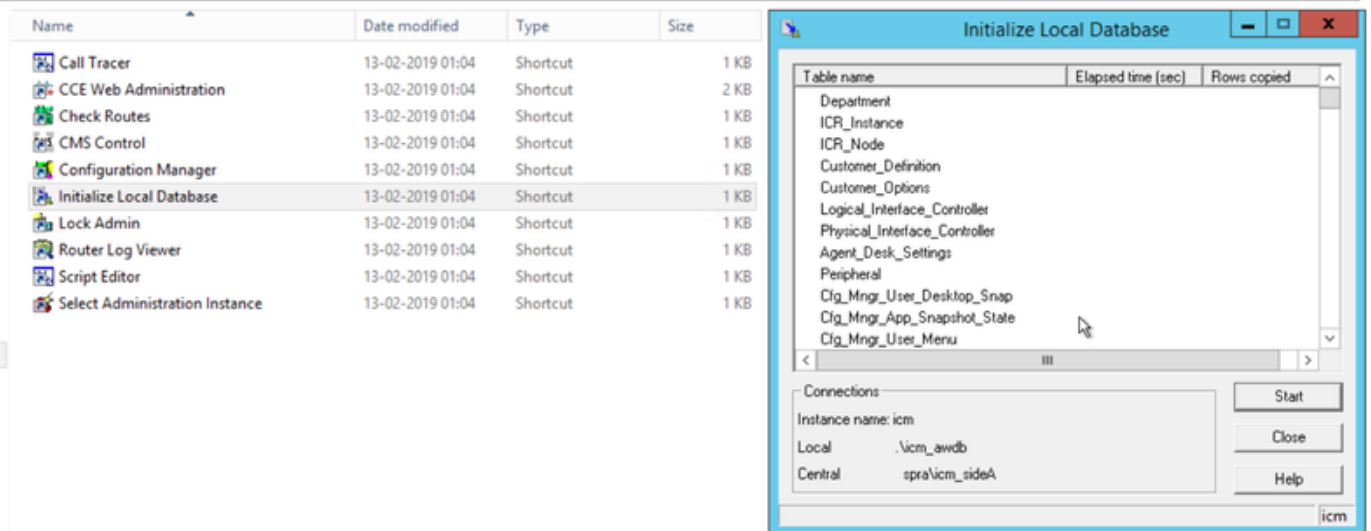
10. サービスコントローラのロガー A および B サービスを開始し、自動ように始動をアップデートして下さい。

11. サービスコントローラのディストリビューター A サービスを開始し、自動ように始動をアップデートして下さい。

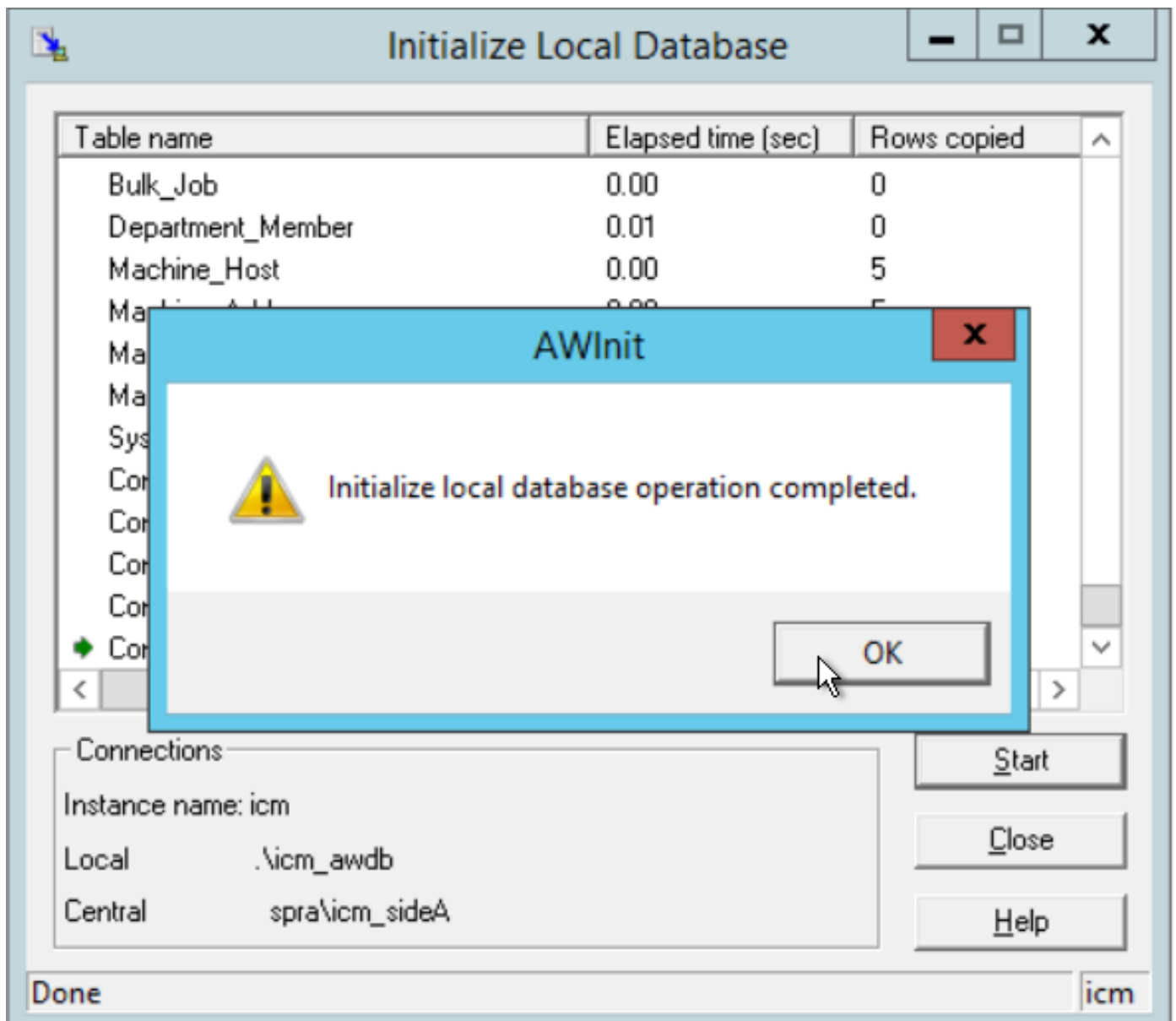
	Cisco ICM icm Distributor	Running	Automatic
	Cisco ICM icm LoggerB	Running	Automatic

12. AWHDS サーバでは、CCE ツール管理 ツールは C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Startメニュー\プログラム\Cisco Unified に行きます。

13. 初期化ローカルデータベースユーティリティを実行して下さい。



14. 次にイメージに示すように、および結果の警告メッセージおよび待機のためには「Start」をクリックして下さい。



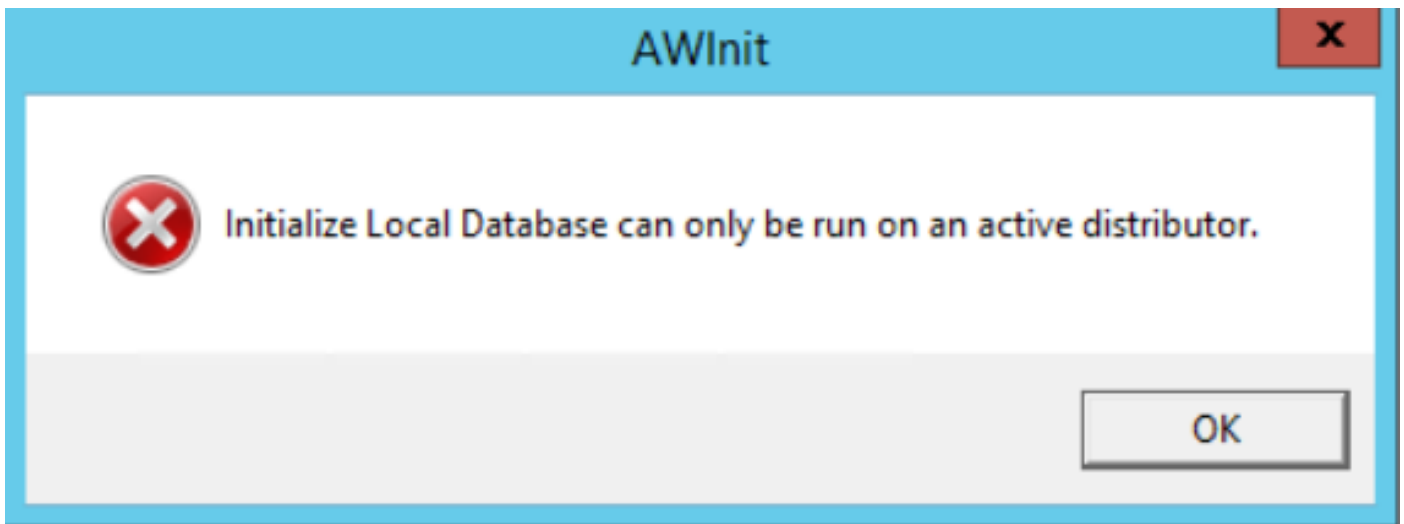
15. この SQL クエリを AWDB A に対して実行し、アップデートされる変更を確認して下さい。

```
select * from Logical_Interface_Controller
```

```
select * from Network_Trunk_Group
```

```
select * from t_Trunk_Group
```

注: PCCE はアクティブ AW でだけ 1 AWSITE と、Init LocalDB 実行されたことができます
デフォルトで持っていますまたは非アクティブ側で Init LocalDB を行う間、このエラーメッ
セージは受け取られます



16. ディストリビューター B をアクティブな側面として作るために、ディストリビューター A サービスを停止して下さい。
17. サービスコントローラのディストリビューター B サービスを開始し、自動ように始動をアップデートして下さい。
18. AWHDS サーバでは、CCE ツール管理 ツールは C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Startメニュー\プログラム\Cisco Unified にナビゲートします
19. 初期化ローカルデータベースユーティリティを実行して下さい。
20. 次に警告メッセージのためにはい『Start』をクリックし、結果まで待つして下さい。
21. この SQL クエリを AWDB B に対して実行し、アップデートされる変更を確認して下さい。

```
select * from Logical_Interface_Controller
```

```
select * from Network_Trunk_Group
```

```
select * from t_Trunk_Group
```

22. サービスコントローラのディストリビューター A サービスを開始して下さい。

注: ルータで実行された コンフィギュレーション変更 要求のほとんどしかし SQL のコンフィギュレーションは直接アップデートされません。それは ConfigUpdate 次の間隔のルータメモリに同期します。次の間隔まで待つか、またはステップ 23 (影響無し) を実行する必要があります。

23. RTTEST のコマンド get_config を実行し、ルータメモリに更新された情報を得てください

。

```
PS C:\Users\Administrator.NAG> rttest /cust icm /node RouterA
RTTEST Release 11.6.1.0 , Build 00808
rttest: get_config
rttest:
```

23. Peripheral Gateway A および B へのナビゲートは VRU PG の OPCTEST におよび接続します

24. コマンドを実行して下さい

```
list_network_trunk_group <NetworkTrunkGroupID> (5000) and
```

```
list_trunk_group <VRU Peripheral ID> (5001)
```

```
PS C:\Users\Administrator.NAG> opctest /cust icm /node pg2a
13:55:59 Trace: EMT Creating Mutex Global\IMTConnect_DisconnectLock
OPCTEST Release 11.6.1.0 , Build 00808
opctest: list_network_trunk_group 5000

OPC Current Time: 02/08 08:26:08
OPC Local Time: 02/08 13:56:08 (+5.5 hr)
NetworkTGID PeripheralID LastHHU #TrunkGrps PeripheralCount Shared Tracing
5000 65535 02/07 18:00:00 3 1 0 0

opctest: list_trunk_groups 5001

OPC Current Time: 02/08 08:26:13
OPC Local Time: 02/08 13:56:13 (+5.5 hr)
Perph# SkTargetID NTGSKTargetID NumTrunks LastHHU Tracing Ext ConfigParam
300 5004 5000 -1 02/07 18:00:00 0
200 5003 5000 -1 02/07 18:00:00 0
100 5002 5000 -1 02/07 18:00:00 0
```

26. 更新済設定をここに示されているように VRU PG OPC に反映されて得るようにして下さい。

27. ログを掲示すれば AWDB アップデートおよび OPCTEST 結果は HDS DB に、必要な間隔更新反映します。(30 最小値後に)。

28. この SQL クエリを実行し、アップデートされる間隔 データを確認して下さい。

```
select * from t_Trunk_Group_Half_Hour where DateTime>'2019-02-14'
```

```
select * from Network_Trunk_Group_Half_Hour where DateTime>'2019-02-14'
```

```
select * from t_Trunk_Group_Half_Hour where DateTime>'2019-02-14' and TrunkGroupID=5002
select * from Network_Trunk_Group_Half_Hour where DateTime>'2019-02-14'
```

	DateTime	TrunkGroupID	TimeZone	CallsAbandonedToHalf	CallsInToHalf	TrunksInService	CallsOutToHalf	AllTrunksBusyToHalf	InServiceTime
1	2019-02-14 00:30:00	5002	-330	0	0	6144	0	0	11059200
2	2019-02-14 01:00:00	5002	-330	0	0	6144	0	0	11071488
3	2019-02-14 01:30:00	5002	-330	0	0	6144	0	0	11053056
4	2019-02-14 02:00:00	5002	-330	0	0	6144	0	0	11059200
5	2019-02-14 02:30:00	5002	-330	0	0	6144	0	0	11059200
6	2019-02-14 03:00:00	5002	-330	0	0	6144	0	0	11059200
7	2019-02-14 03:30:00	5002	-330	0	0	6144	0	0	11059200
8	2019-02-14 04:00:00	5002	-330	0	0	6144	0	0	11065344
9	2019-02-14 04:30:00	5002	-330	0	0	6144	0	0	11059200
10	2019-02-14 05:00:00	5002	-330	0	0	6144	0	0	11059200

	Network:TrunkGroupID	DateTime	TimeZone	AllTrunksBusyToHalf	CallsAbandonedToHalf	CallsInToHalf	CallsOutToHalf	InServiceTimeToHalf
1	5000	2019-02-14 00:30:00	-330	0	0	0	0	34437600
2	5000	2019-02-14 01:00:00	-330	0	0	0	0	34475864
3	5000	2019-02-14 01:30:00	-330	0	0	0	0	34418468
4	5000	2019-02-14 02:00:00	-330	0	0	0	0	34437600
5	5000	2019-02-14 02:30:00	-330	0	0	0	0	34437600
6	5000	2019-02-14 03:00:00	-330	0	0	0	0	34437600
7	5000	2019-02-14 03:30:00	-330	0	0	0	0	34437600
8	5000	2019-02-14 04:00:00	-330	0	0	0	0	34456732
9	5000	2019-02-14 04:30:00	-330	0	0	0	0	34437600
10	5000	2019-02-14 05:00:00	-330	0	0	0	0	34437600

ロールバック

ローガー データベースに直接アクセスし、SQL 更新コマンドを使用することは非常に重要、敏感です。ステップの不適当な使用法はデータ損失、データ修正先祖などに導く可能性があります。それは強く推奨されています Cisco TAC エンジニアの推奨事項と特定のシナリオにだけ上記のステップを使用するために。

ステップを続行する前に SQL データベース バックアップ (FULL) を集めたので不確実性を克服するためにデータベースを復元するのに、バックアップ ファイルに使用できます。

https://www.youtube.com/watch?v=TWQe_CxK9Ik